

## 令和2年1月期 学長記者懇談会

1. 日 時：令和2年2月5日（水） 15：00～16：00

2. 場 所：大学本部棟 2階 第二会議室

### 3. 懇談事項等

- ① SEAMA 2020 (Islands Tourism & Hospitality Management)開催について・・・資料1  
(説明者：国際地域創造学部 教授 橋本 俊作)
- ② 共通教育科目「英語講読演習中級」クラスと琉大教育学部附属中1年生との交流授業  
について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2  
(説明者：国際地域創造学部 講師 金藤 多美子)
- ③ 琉球大学における数理データサイエンス教育への取組について・・・・・・・・資料3  
(説明者：国際地域創造学部 教授 瀬口 浩一)
- ④ ハワイ沖縄連合会との連携協力に関する覚書の締結について・・・・・・・・資料4  
(説明者：総合企画戦略部 国際連携推進課長 鈴木 直)
- ⑤ 第3回 琉大未来共創フォーラムについて・・・・・・・・・・・・・・・・資料5  
(説明者：ジェンダー協働推進室長 喜納 育江)
- ⑥ 第1回法科大学院共通到達度確認試験について・・・・・・・・・・・・・・・・資料6  
(説明者：法務研究科長 清水 一成)
- ⑦ 令和2年度琉球大学個別学力試験（一般入試）について・・・・・・・・資料7  
(説明者：学生部入試課長 湧川 ひろみ)
- ⑧ 沖縄からアジアへトビタテ！留学 JAPAN 報告会の開催について・・・・・・・・資料8  
(説明者：総合企画戦略部 地域連携推進課長 金城 徹)

### 4. 出席者：(予定)

西田学長、牛窪理事・副学長(地域・社会連携担当)、橋本国際地域創造学部教授、  
金藤国際地域創造学部講師、瀬口国際地域創造学部教授、鈴木総合企画戦略部国際  
連携推進課長、喜納ジェンダー協働推進室長、清水法務研究科長、湧川学生部入試  
課長、金城地域連携推進課長、久保田法務研究科教授、宗本学生部教育支援課長、  
村山国際連携推進係主任、金城企画調整役(広報担当)

# SEAMA2020

## Islands Tourism & Hospitality Management

### How to discover and disseminate the charm of the Islands

\*SEAMA (SEA:海 + MA:マネジメント ⇒ SEAMA= 島)

#### テーマ: 島(地域)の魅力をいかに発見し、発信するか

SEAMA2020 は、琉球大学で開催されます。

沖縄は素晴らしいアイランドリゾートとして知られており、その沖縄で Islands Tourism の会議を開催することは大変貴重な機会となります。世界には多くの島がありますが、すべての島がその魅力を十分に伝えているわけではありません。それぞれの島が、その魅力を広く伝えることは島の観光にとって重要な課題です。しかし同時に、島の貴重な天然資源を保護することも、また重要な課題となります。SEAMA2020 は、これらの課題にいかに対処するかをテーマに開催いたします。世界から多くの研究者、実務家が集まり熱心な議論が交わされることを願っております。

#### 開催日時

2020年3月6日(金)、3月7日(土) 10:00~17:30 (両日とも)

\*3月6日(金) 18:20~20:00 Welcome Party 開催: 北食堂

\*使用言語: 英語 (発表要旨、発表含む)

\*Keynote については日本語もあり。(同時通訳あり)

#### 会場

琉球大学 文系講義棟 215 他

#### 開催内容

##### ・3月6日(金)

- 9:15 受付開始
- 10:00~12:00 研究発表
- 13:00~13:30 開会挨拶、招聘者代表挨拶
- 13:30~14:30 基調講演 2名
- 14:30~15:00 招待講演 1名
- 15:00~15:30 ティーブレイク、ポスターセッション
- 15:30~17:00 パネルディスカッション 1題
- 17:20~17:50 アトラクション: エイサー
- 18:20~20:00 Welcome Party 北食堂

##### ・3月7日(土)

- 9:15 受付開始
- 10:00~12:00 研究発表
- 13:00~13:30 招待講演 1名
- 13:30~14:30 基調講演 2名
- 14:30~15:00 ティーブレイク、ポスターセッション
- 15:00~16:30 パネルディスカッション 1題
- 16:30~17:00 招聘者コメント

17:00 閉会挨拶  
17:10～17:40 キャンパスツアー

\*ポスターセッションは、両日開催

### 招聘者

- 蘇 哲仁 天主教輔仁大学 教授
- Stephen Pratt 南太平洋大学 (フィジー) 教授 観光学部長
- 蔡宗憲 金門大学 (台湾) 准教授
- Cho, Mi-Hea セジョン大学 (韓国) 教授
- Suchada Chareanpunsirikul バンコク大学 教授 大学院長
- Yanki Hartijasti インドネシア大学 准教授
- Venkata Rao ポンディシェリー大学 (インド) 教授
- Sandeep Kulshreshtha インド国立観光旅行経営大学 教授 学長
- Suranga Silva コロンボ大学 (スリランカ) 教授
- Joseph Cheer 和歌山大学 国際観光学研究センター 特任教授
- Adam Doering 和歌山大学 国際観光学研究センター 准教授
- Joao Romao 北海道大学 研究員
- Keir Reeves フェデレーション大学 (オーストラリア) 教授
- Anand Singh IHM (Institute of Hotel Management、インド) 学長、教授
- Ravinder Rena NWU (North West University、南アフリカ) 教授
- 早川 周作 琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社 代表取締役
- 石崎 祥之 立命館大学 教授
- 廣岡 裕一 京都外国語大学 教授
- 大井 達雄 和歌山大学 教授
- 守屋 邦彦 公益財団法人日本交通公社 上席主任研究員

### 主催

- ・琉球大学国際地域創造学部

### 共催

- ・天主教輔仁大学 (台湾)
- ・名桜大学 (申請中)
- ・和歌山大学 国際観光学研究センター (申請中)
- ・旅行ビジネス研究学会
- ・日本観光経営学会
- ・国際観光学研究会 (International Society for Tourism Research)

### 後援

- ・前田建設工業
- ・ユニオンプレス
- ・沖縄観光コンベンションビューロー
- ・観光庁 (申請中)
- ・屏東県観光協会 (Pingtung Tourism Association 台湾)

### 参加費 (昼食含)

- ・一般参加者：国内：20,000 円、海外：200US ドル
- ・旅行ビジネス研究学会、日本観光経営学会、会員：10,000 円
- ・大学院生、学生：国内：5,000 円、海外：50US ドル

\*Welcome Party : 5,000 円、海外 : 50US ドル (学生 : 3000 円、海外 : 30US ドル)

**お申し込み・お問い合わせ**

\*旅行ビジネス研究学会、日本観光経営学会会員のみなさまは下記までご連絡ください。発表要旨フォーム、参加費お支払い方法等詳細をお送りいたします。

SEAMA2020 運営事務局 : 琉球大学国際地域創造学部  
事務局長 橋本俊作 (琉球大学 国際地域創造学部 教授)  
Mail: shunh@tm.u-ryukyu.ac.jp

**\*締切り**

発表申し込み : 2020 年 1 月 31 日 (金)

参加申し込み : 2020 年 2 月 7 日 (金)

# SEAMA 2020

## Islands Tourism & Hospitality Management

Date: 6th & 7th, Mar, 2020

Venue: University of the Ryukyus, Okinawa, Japan

### THE CONFERENCE

The conference is organized by Ryukyu University (Faculty of Global and Regional Studies) -Okinawa, Japan. Okinawa is well known as the great Island Resort. Holding the conference of Islands Tourism in Okinawa, it would be very valuable. There are so many islands in the world, however, not every island can fully disseminate its attractiveness. It will be an important issue for tourism on the island to fully disseminate its attractiveness. At the same time, however, protecting the island's precious natural resources is an important issue as well. The conference will be held on the theme of how to deal with these issues. We hope that researchers from all over the world will gather to exchange enthusiastic discussions.

### KEYNOTE SPEAKERS Coming Soon

### CONFERENCE SCHEDULE Coming Soon

### CALL FOR PAPERS

Theme: How to discover and disseminate the attractiveness of the Islands

Call for papers and posters based on this theme widely. The research categories are as follows:

- \*Islands Tourism
- \*Maritime Tourism
- \*Hospitality Management
- \*Destination Management
- \*Promotion of islands and regions
- \*Sports Tourism

### SUBMISSION: INDIVIDUAL PAPERS or POSTERS

Please note that your abstract should be 250-300 words in length and include 3-5 keywords, author name(s), affiliation(s) and email(s).

\*Submission of abstract: [istr@union-services.com](mailto:istr@union-services.com)

### IMPORTANT DATE:

\*Abstract submission dead line: 31 Jan 2020

\*Registration Closes: 7 Feb 2020

### PUBLICATION

Presenters will be given priority for publication to the academic journal : Journal of Global Tourism Research. After the conference, presenters who wants publication should submit a full paper. \*Details will be open soon

### ATTENDING FEES

Regular: Full access to all talks & keynotes and sessions & Presentation 200 US\$ or 20,000 JPY

Student: Full access to all talks & keynotes and sessions & Presentation 100 US\$ or 10,000 JPY

Accompanying: Non presentation 150 US\$ or 15,000 JPY

\*Lunch (6 & 7 March ) is included Welcome Party: 6 March 50 US\$ or 5,000 JPY

### REGISTRATION It will be open soon

ORGANIZER: University of the Ryukyus (Faculty of Global and Regional Studies) -Okinawa, Japan

ORGANIZING COMMITTEE CHAIR PERSON: Prof. Shunsaku Hashimoto [shunh@tm.u-ryukyu.ac.jp](mailto:shunh@tm.u-ryukyu.ac.jp)



2020年1月14日

国際地域創造学部  
金藤多美子

## 琉大生と教育学部附属中1年生との交流授業実施報告

## (1) 目的

- ・英語講読演習中級 22 組(工学部1年生 45 名)の授業で取り組んでいる英語多読の成果発表とアウトプットの機会として、中学生に英語の本の読み聞かせをする。
- ・大学生のリーダーシップ力・コミュニケーション力を高めるとともに、英語で話すことへの自信を高める。
- ・異年齢集団との関わりを通して双方の社会性を高める。
- ・交流授業を通して中学生の英語リーディングへの興味・関心を高める。
- ・中学生が後日小学部児童に読み聞かせをする活動への動機付けとする。

## (2) 英語講読演習中級 22 組事前指導日程

2019 年

- 10 月 11 日 英語自己紹介ビデオ撮影(交流授業前に英語授業で中1生に見てもらうため)
- 11 月 15 日 事前指導1回目(下記参照)
- 11 月 22 日 読み聞かせをする本を担当教員に連絡→本のリスト(p.3 参照)を附属中浦崎先生に連絡  
\*各自で読み聞かせ練習
- 12 月 6 日 リハーサル 1 回目
- 12 月 13 日 リハーサル 2 回目及び事前指導2回目
- 12 月 20 日 読み聞かせプロジェクト(交流授業)

## (3) 事前指導内容

&lt; 諸注意 &gt;

- 中学校の教室に入って活動することを考慮し、教育実習に準ずる服装・頭髪で参加する。
  - ・シャツは白が基本、黒・紺・グレー・茶系の落ち着いた色のズボンやスカート、地味なスニーカーなど。
  - ・中学校を訪問するので、柄物やジーンズ、サンダルなどの遊び着、派手な色の物は避けること。ピアスやイヤリングは外すこと。
  - ・頭髪を染めている人は配慮すること。
- 成人であるという意識を持ち、自分の言動に責任を持つ。
  - ・中学生から見れば「大人」です。中学生の手本となる言動を心がけましょう。
  - ・電話番号やラインのアカウントを渡したり交換したりしないこと。
  - ・当日は総合学習の時間として、1年生担当の先生方全員が教室に入ってください。近い将来社会人となることを踏まえ、先生方やお世話になる方々に礼儀正しく自分から爽やかに挨拶しましょう。
- 自信を持って英語を使う。
  - ・同じ日本人の先輩である大学生が自信を持って英語を使うことが、中学生も前向きに英語で話すことにつながるはず。大学生が会話をリードし、自分の選んだ本に興味を持ってもらえるよう真摯に読み聞かせに取り組みましょう。

(4) 当日の流れ

8:30 教室に集合、出席確認後全員で附属中に移動

2階の多目的室(控室)に荷物を置き、本とパイプ椅子(1人1脚)を持って教室へ行く

9:00 各教室に入って黒板前に1列で整列(中学生は4人グループで座っている)

中学生進行役の号令で挨拶

中学生による Welcome speech 後、各グループに大学生が1(or 2)人加わり活動開始

\* 下の1-3を12-13分で行い、次のグループに移動(タイムキーパーは各担任の先生方)

1. 自己紹介(英語)
2. 読み聞かせ
3. 本の内容についての Q&A、感想

9:50 終了、中学生代表挨拶→大学生代表挨拶→担任の先生方から一言

大学生はパイプ椅子を多目的室に戻して現地解散

タイトル	YL	備考
The Race	0.5	琉大図書館
A Kiss for Little Bear	0.5	
The Snowman	0.3	
Helen Keller	レベル2	琉大図書館
The Dragon Dance	0.4	
Danny and the Dinosaur: Too Tall	0.4	琉大図書館
Gran	0.5	
Avengers: Call for Back Up	0.4	
On the Wing	0.5-0.7	琉大図書館
Frog and Toad All Year	1.2	
The Egg hunt	0.3	
Danny and the Dinosaur and the Sand Castle Contest	レベル1	
Mouse Tales	1.4	
Curious George's Dream	0.7	
The Story of Spider-Man	レベル2	琉大図書館
I Want To Be A Doctor	0.4-0.6	
The laughing princess	0.6	琉大図書館
Cool Buildings	0.9	琉大図書館
Drawing Adventure	0.5	
Curious George Takes a Train	0.6	
Curious George Goes to the Beach	0.7	琉大図書館
Curious George Visits the Zoo	0.6	琉大図書館
The Magic Barber	0.9	
Be Quiet	0.6	琉大図書館
Curious George Mother's Day Surprise	0.6	琉大図書館
The Adventure Park	0.6	
Hide and Cheat	0.8	琉大図書館
Paddington Sets Sail	0.6	琉大図書館
Canada Day	0.7	
Curious George at the Aquarium	0.8	琉大図書館
Is That You, Santa?	0.4	
Dino's Day in London	0.8	琉大図書館
The Bravest Cat	0.6	
The Flying Horse	0.6	
Curious George at the Baseball Game	0.6	琉大図書館
Flying High	0.6	琉大図書館
Curious George and the Birthday Surprise	0.6	琉大図書館
Curious George Visits the Library	0.7	
Curious George and the Dinosaur	1	
Curious George in the Big City	0.9	
Curious George Goes to a Movie	0.8	琉大図書館
Curious George's First Day of School	0.7	琉大図書館
I Wish I Was a Gorilla	0.9	琉大図書館
Curious George Sweet Dreams	1	
Robo-Rex	0.5	琉大図書館
Nate the Great and the Phony Clue	1.3	琉大図書館

\*YL=日本人の大人にとっての読みやすさレベル (数値が小さいほど読みやすい)

\* 琉大図書館の本以外は、授業で使用している多読用図書



(5) 事後学習

- ・ 中学生から大学生 1 人 1 人にお礼のメッセージ(英語)を書く
- ・ 大学生は冬休み課題として、読み聞かせに使用した本を紹介するオリジナル・ブックレポートを作成して提出。(→後日、中学生にも披露し、読み聞かせ時に聞いた話を振り返ってもらう、また、可能であれば小学生にも紹介する。)

(6) 資料

\* 琉大 COIL (Collaborative Online International Learning) 技術補佐スタッフに、英語自己紹介ビデオ撮影・編集、及び、当日の記録ビデオ撮影で大変お世話になりました。



中学生の welcome speech



中学生主導による warm-up game



読み聞かせの様子



大学生代表挨拶

中学生からのお礼のメッセージを読む学生たち

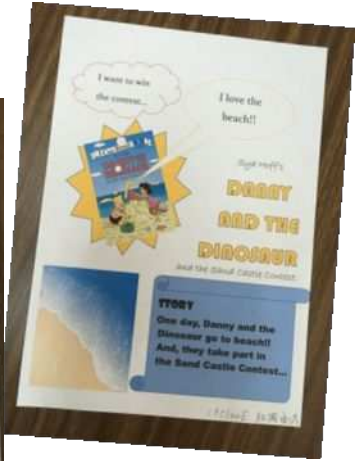
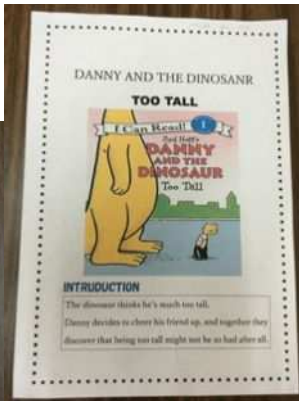
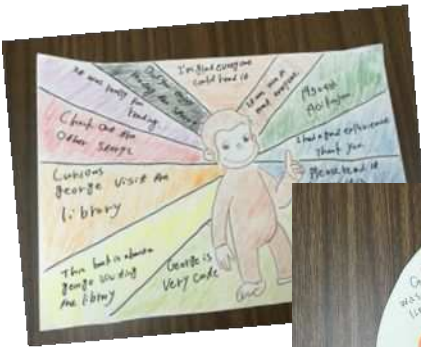
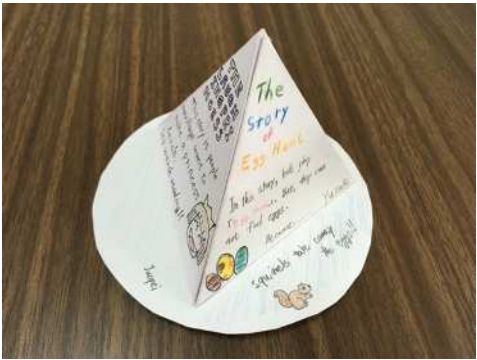
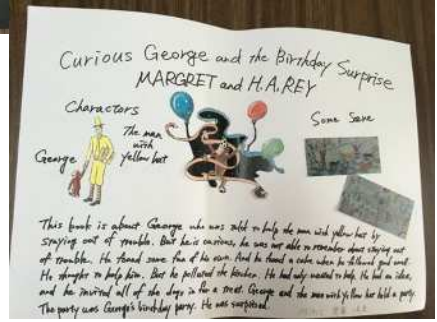
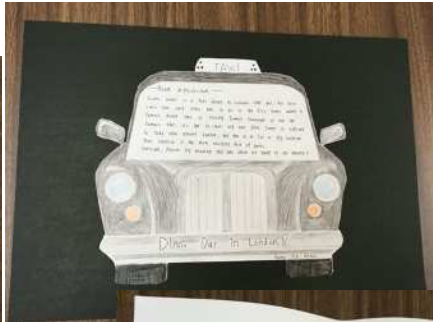


お礼のメッセージ

大学生の冬休み課題作品：次ページに見られるように、工学部学生らしく、クリエイティブなブックレポートが集まりました！







大学生も中学生も「おさるのジョージ」が大好き！



こちらの学生は、ストーリーバッグを作成。小物でストーリーを追うことができます。



#### \* 大学生の振り返りより

- ・ 自分のつたない英語を笑顔で聞いてくれて、楽しそうに英語を学ぶ姿を見て、自分もあの頃みたいにもっと英語を楽しんでいこうと思った。(工学科機械工学コース・1年)
- ・ 読み聞かせプロジェクトでは、ただ絵本を読み聞かせるだけではなく、中学生の表情を見て理解できているか確認したり、率先してコミュニケーションをとったり、50分間でとても多くのことを学ぶことができました。(工学科機械工学コース・1年)
- ・ 中学生の入念な準備に驚いた。読み聞かせの前に英語を使ったクイズをしてくれたので、その場の雰囲気がとてもあたたかくなった。他人に読み聞かせをするためには自分がしっかり(内容を)理解していることが大切だと分かった。(工学科機械工学コース・1年)
- ・ 読み聞かせプロジェクト、緊張しました。聞きにくい読み方をしてしまったけど、中学生はすごく真剣に集中して聞いてくれて感動しました。自分も純粋な気持ちでもっと勉強に励もうと思いました。(工学科エネルギー環境工学コース・1年)
- ・ 自分の実力と時間を考えた上で本を選びました。(この活動を通して)相手に伝えることの難しさ、相手に合わせた内容設定の難しさなど、様々なことを学べてよかった。(工学科エネルギー環境工学コース・1年)

## 令和元年度 1 月期学長記者懇談会 提案事項

1. 事項名 琉球大学における数理データサイエンス教育への取組について
2. 提案部局 グローバル教育支援機構、国際地域創造学部
3. 説明者 国際地域創造学部 瀬口浩一
4. 懇談内容
  - 平成 31 年度から採択された文部科学省「数理・データサイエンス教育の全国展開」事業の協力校における取組の紹介
  - 2019 年 12 月 14 日に開催したシンポジウム「数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム ～すべての県内大学生へデータサイエンスを～」の成果について（シンポジウムの内容と連絡会の立ち上げ）
  - 国際地域創造学部の取り組み「国際地域創造学部 データサイエンティスト養成履修モデル（仮称）」の紹介
5. 資料
  - 事業概要・本学の取組「未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・データサイエンス教育普及展開事業」
  - シンポジウムチラシ「数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム～すべての県内大学生へデータサイエンスを～」
  - 「国際地域創造学部 データサイエンティスト養成履修モデル（仮称）」
  - 大学の数理及びデータサイエンス教育の全国展開（文部科学省資料）

2020年2月5日（水曜日）  
学長記者懇談会

## 事業概要・本学の取り組み

「未来価値創造に向けた島嶼地域型数理  
・データサイエンス教育普及展開事業」

琉球大学



琉球大学  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

## 各ブロックの担当地域および 担当拠点校、協力校について

ブロック名	担当する都道府県	大学数	拠点校	協力校
北海道・東北	北海道(38), 青森(10), 岩手(6), 宮城(14), 秋田(7), 山形(6), 福島(8)	89校	北海道大学	北見工業大学, 東北大学 山形大学
関東・首都圏	茨城(10), 栃木(9), 群馬(14), 埼玉(28), 千葉(27), 東京(138), 神奈川(30), 山梨(7)	263校	東京大学	筑波大学, 宇都宮大学 群馬大学, 千葉大学 お茶の水女子大学
中部・東海	新潟(19), 富山(5), 石川(13), 福井(6), 長野(10), 岐阜(12), 静岡(12), 愛知(51)	128校	滋賀大学	新潟大学, 長岡技術科学大学 静岡大学, 名古屋大学 豊橋技術科学大学
近畿	三重(7), 滋賀(8), 京都(34), 大阪(55), 兵庫(37), 奈良(11), 和歌山(3)	155校	京都大学 大阪大学 滋賀大学	神戸大学
中国・四国	鳥取(3), 島根(2), 岡山(17), 広島(20), 山口(10), 徳島(4), 香川(4), 愛媛(5), 高知(3)	68校	大阪大学	島根大学, 岡山大学 広島大学, 愛媛大学
九州・沖縄	福岡(34), 佐賀(2), 長崎(8), 熊本(9), 大分(5), 宮崎(7), 鹿児島(6), 沖縄(8)	79校	九州大学	宮崎大学, 琉球大学





# データサイエンス取組の経緯と事業の概要

## 取組の経緯

以前より各学部の  
講義・演習で実施  
(バラバラに)

データサイエンス人材  
育成の全学的強化に向け、  
学内の課題整理・答申

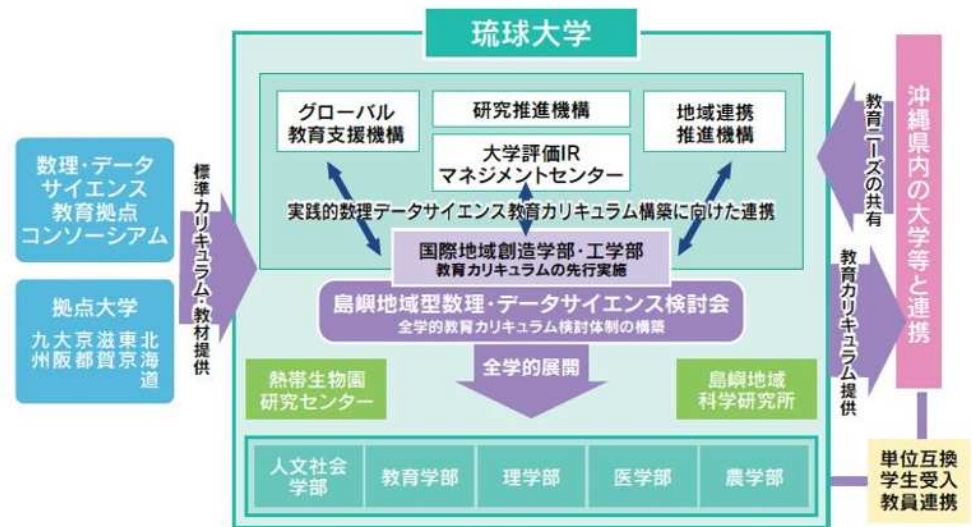
教員ポスト戦略的再配分  
データサイエンスポスト  
を2学部に分

協力校  
申請

事業の実現に向け、数学及び統計学、その知識を応用した実証分析やデータ解析に精通する教員（国際地域創造学部や工学部をはじめ、様々な学内組織に属する教員）を中心にカリキュラム実施を担うとともに、全学的展開を進めるにあたって学内に「島嶼地域型数理・データサイエンス検討会（仮称）」を設置し、教育研究組織のみならず、全学的運営組織（グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構）及び大学評価IRマネジメントセンター等との学内連携により、様々な領域での教育カリキュラムの充実を図る。また、県内大学等と連携しニーズに根差した教育プログラムの充実を図るとともに、一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センターとも連携し産業課題ニーズの教育プログラムへの反映を行い、全県的な産学官連携体制のもと推進する。

## 事業の概要

### 組織（プロジェクト）の目的と構成



### 取組概要

◆ 拠点大学の開発する標準カリキュラム及びオンライン教材を活用しつつ、本学の置かれた島嶼地域の地理的特性を踏まえ、地域課題解決・新産業創出を見据えた実践的かつ特色ある数理・データサイエンス教育を実施し、高度の専門知識、応用能力、課題解決能力を有する人材、地域社会や国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する

ため、国際地域創造学部及び工学部を中核とし、グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構、大学評価IRマネジメントセンターと連携した実践的教育モデルを構築する。さらに、沖縄県内の高等教育機関と連携し、「島嶼地域型数理・データサイエンス教育モデル」の県内機関への展開を推進する。



琉球大学  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS



# 未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・データサイエンス教育普及展開事業 工程表

法人番号 82  
法人名 琉球大学

KPI	2019年度	2020年度	2021年度以降	波及効果
<b>全体計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点校、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムとの連携</li> <li>島嶼地域型データサイエンス教育カリキュラム構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育カリキュラムの全学的展開</li> <li>大学コンソーシアム沖縄との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼地域型数理データサイエンス教育の普及展開</li> </ul>	<p><b>◆ 地域における数理データサイエンス教育拠点構築へ</b></p> <p><b>◆ 小・中・高との連携による一貫型データサイエンス人材育成システムの構築</b> <small>※JST事業との連携</small></p> <p><b>◆ データサイエンスによる地域課題解決・新産業創出を担う人材の輩出</b> <small>※社会人向け人材育成システムとの連携</small></p>
<b>島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数 (自大学) 300名</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点校連携(標準カリキュラム導入等)</li> <li>国際地域創造学部(H30改組)による先行導入</li> <li>島嶼地域型数理・データサイエンス検討会(仮称)の立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼地域型数理・データサイエンス教育カリキュラム全学的展開</li> <li>カリキュラム内容の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムへの反映</li> <li>同コンソーシアムと連携した展開</li> </ul>	
<b>普及連携機関数(大学コンソーシアム沖縄との連携) 8機関</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼型データサイエンス協議会(仮称)の立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各機関における数理・データサイエンス教育の実態・ニーズ調査</li> <li>個別プログラムの構築</li> <li>コンソーシアムへの協力依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県内での教育プログラム普及</li> <li>連携機関との協力によるプログラム検証・充実の推進</li> </ul>	
<b>島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数 (連携大学) 500名</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各機関における教育プログラム提供体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼地域型数理・データサイエンス教育プログラムの提供</li> </ul>	
<b>普及連携機関との単位互換制度等の構築 3件</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外の大学との単位互換に関する大学(部局)間協定締結に向けた準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及連携機関の教育コース・カリキュラムを踏まえた単位互換制度構築</li> <li>教育カリキュラムの展開</li> </ul>	



**琉球大学**  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

# 今後の取組

---

## 【プログラム】

- ・ 国際地域創造学部経済系の数理DSカリキュラム構築（初年次から高年次まで）  
科目設置 授業環境整備
- ・ 工学部知能情報コースのカリキュラム高度化  
PBL強化

## 【全学】

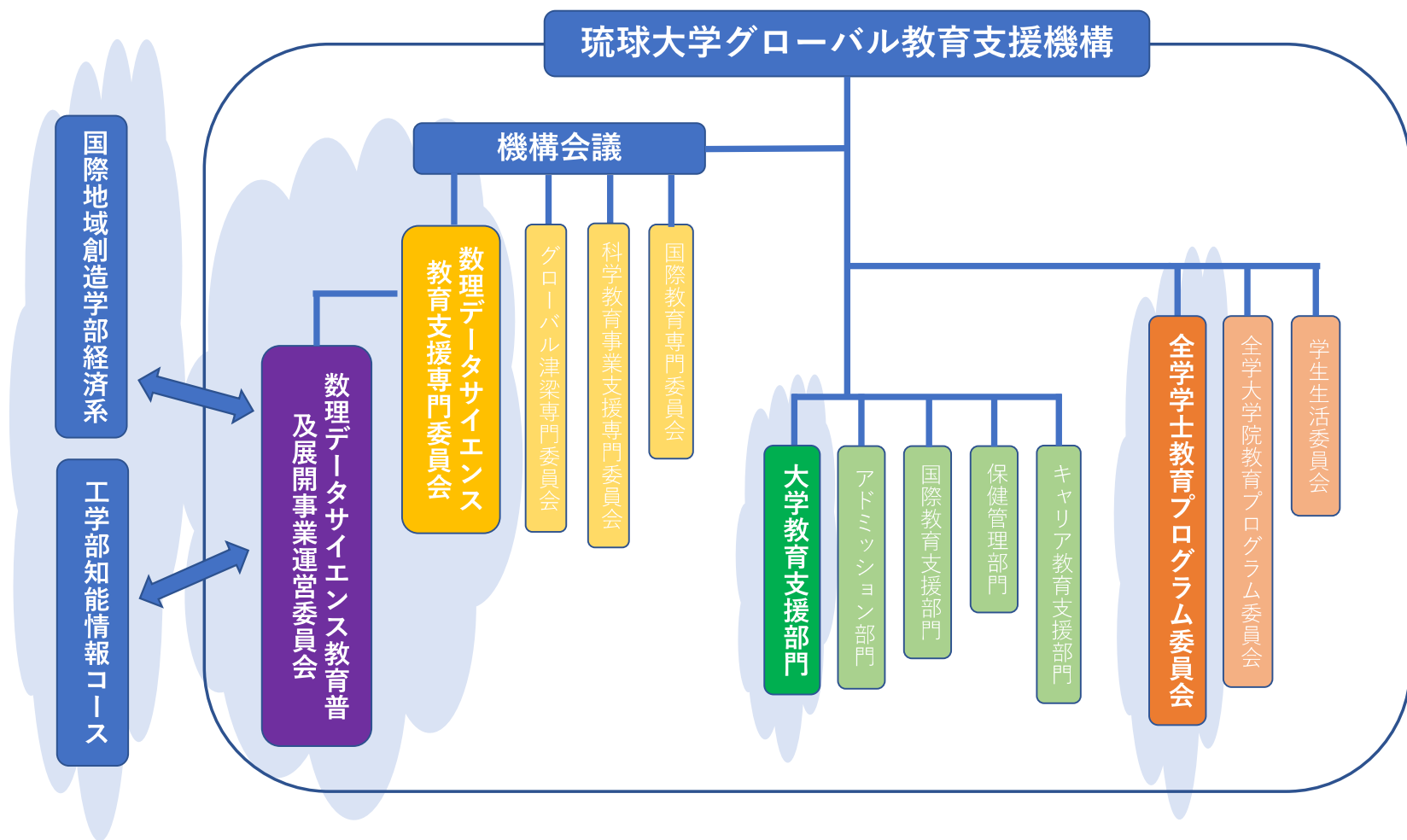
- ・ 全学的な数理DS教育 方針や 実施体制を検討する組織設置  
グローバル教育支援機構に「数理データサイエンス教育支援専門委員会」（予定）  
各学部から委員選出 全学的な教育を検討する委員会と連携
- ・ 採択事業の運営組織  
上記専門委員会の下に「数理データサイエンス教育普及展開事業運営委員会」（予定）  
事業目標達成の管理

## 【沖縄県】

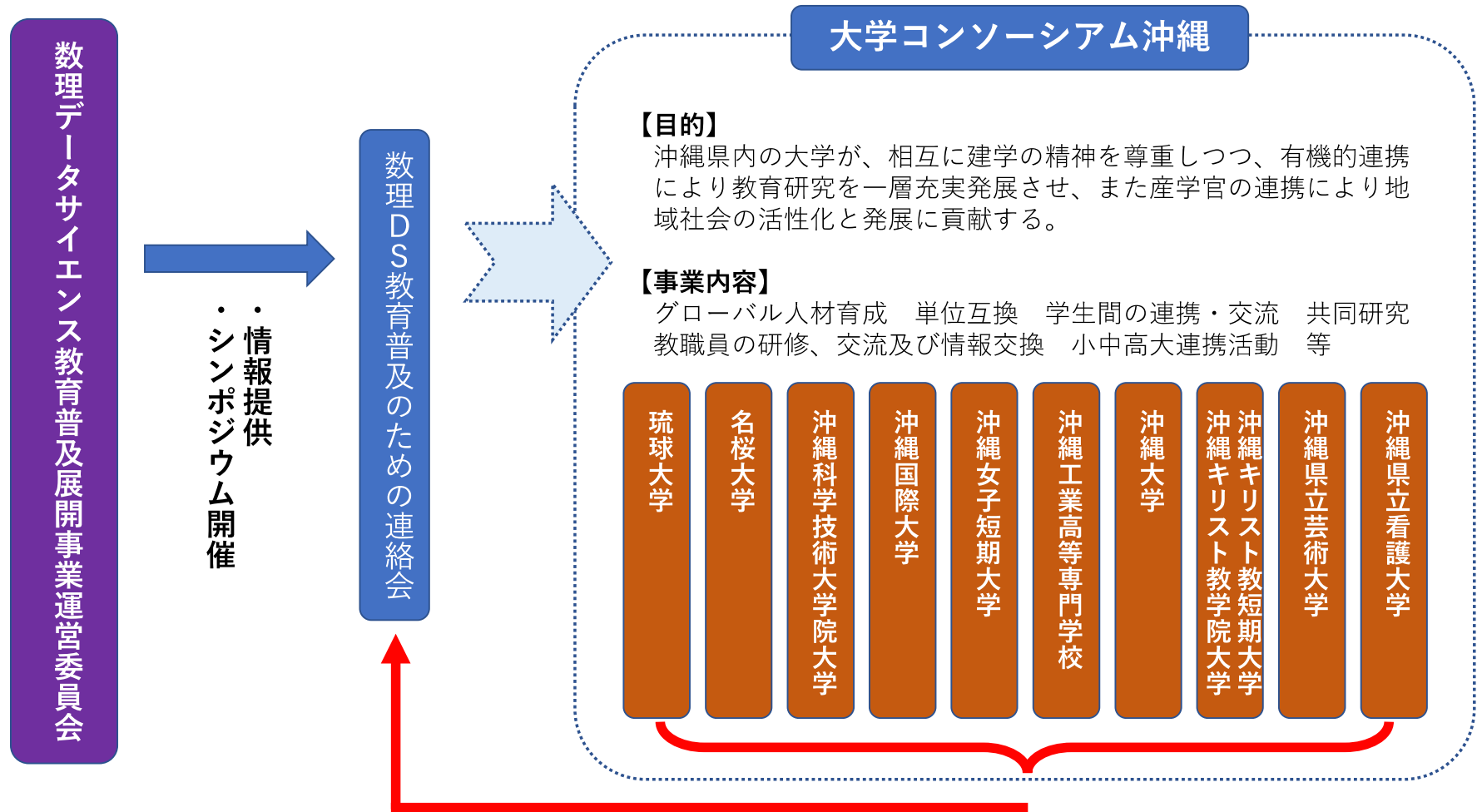
- ・ 県内大学生への数理DS教育を推進  
県内大学と数理DS教育普及のための連絡会設置予定  
⇒ 大学コンソーシアム沖縄との連携  
数理・DS教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラムやコンテンツ等の活用
- ・ 「数理・データサイエンス教育普及展開シンポジウム  
～すべての県内大学生へデータサイエンスを～」 令和元年12月14日開催



# 琉球大学での数理DS教育推進体制



# 沖縄県内数理DS教育普及にむけて（構想）





「数理・データサイエンス教育強化」事業 協力校

# 数理データサイエンス教育 普及展開シンポジウム

～すべての県内大学生へデータサイエンスを～

日時:2019年12月14日(土)13:30~16:30  
場所:琉球大学附属図書館 ラーニングcommons

(沖縄県中頭郡西原町千原1番地)

## プログラム

司会:岡崎 威生(琉球大学工学部 教授)

- 13:00 受付開始
- 13:30 開会挨拶(琉球大学理事・副学長 井上 章二)
- 13:40 基調講演 真嘉比 愛 氏  
(ちゅらデータ株式会社 代表取締役社長)  
「大学に期待する数理データサイエンス人材」
- 14:30 事業説明(琉球大学)
  - ① 事業概要・琉大の取り組み
  - ② データサイエンス教育のポイント
- 15:05 事例紹介(宮崎大学)  
「数理・データサイエンスを活かした地域産業人材の育成に向けたカリキュラム・教材の開発」
- 15:40 意見交換会  
沖縄県数理データサイエンス連絡会立ち上げ
- 16:25 閉会
- 17:00 情報交換会(18:00 終了予定)

【申込締切日】 **2019年12月10日(火)**

TEL:098-895-8124 FAX:098-895-8850  
✉ [kykikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:kykikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp)

## 基調講演

ちゅらデータ株式会社

代表取締役社長 真嘉比 愛 氏

<略歴>

沖縄工業高等専門学校を卒業後、長岡技術科学大学大学院にて自然言語処理を専攻。卒業後、広告事業のデータ分析などを経験し、2016年にDATUM STUDIOに入社。2017年に沖縄に子会社としてちゅらデータを創業。ビジネスデータのみならず、自然言語処理、画像解析など100社を超えるAI構築のコンサルティング・開発に従事。DATUM STUDIO 副社長 / 沖縄ITイノベーション戦略センター 理事



## 【会場地図】



## 【申込方法】

こちらの[フォーム](#)又はQRコードよりお申し込みください



【主催】 琉球大学グローバル教育支援機構

【協力】 大学コンソーシアム沖縄

国際地域創造学部 データサイエンティスト養成履修モデル（仮称）

1. 履修モデルの趣旨

「数学」「統計学」「情報学」を中心とするデータサイエンス（データを処理し、高度なデータ解析を行う分野）の初級・中級程度能力を養い、養った力を様々な分野における「価値創造」につなげることでできる人材を育成する。

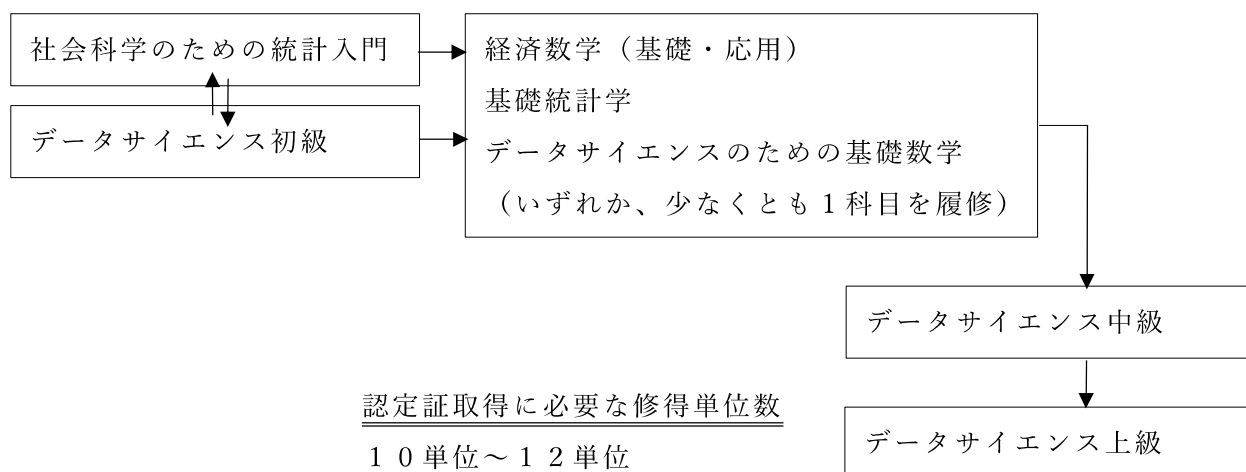
2. 科目の開講時期

データサイエンティスト養成履修モデル

		1年次		2年次		3年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
昼間主コース	数理	データサイエンスのための基礎数学 (専門基盤力科目、前期又は後期)					
				経済数学（基礎・応用） (経済学プログラム専門基礎科目、Q1及びQ2)			
	情報・統計など データサイエンス	社会科学のための統計入門 (専門基盤力科目、Q1又はQ3)		データサイエンス中級 (経済学プログラム専門基礎科目、前期又は後期)		データサイエンス上級 (経済学プログラム専門応用科目、前期又は後期)	
		基礎統計学 (経済学プログラム専門基礎科目、Q2又はQ4)					
	データサイエンス初級 (専門基盤力科目、前期又は後期)						
夜間主コース	数理	データサイエンスのための基礎数学 (専門基盤力科目、前期又は後期)					
				経済数学（基礎・応用） (経済学プログラム専門基礎科目、Q1及びQ2)			
	情報・統計など データサイエンス	社会科学のための統計入門 (専門基盤力科目、Q1又はQ3)		データサイエンス中級 (経済学プログラム専門基礎科目、前期又は後期)		データサイエンス上級 (経済学プログラム専門応用科目、前期又は後期)	
		基礎統計学 (経済学プログラム専門基礎科目、Q2又はQ4)					
	データサイエンス初級 (専門基盤力科目、前期又は後期)						

(備考)  は「必ず履修しなければならない科目」  は「いずれか1科目以上を選択し、必ず履修しなければならない科目」を示す。

3. 科目履修の流れ



上記の必要な科目を履修し、単位を修得した者には データサイエンティストの素養を国際地域創造学部が証明する「認定証」 を交付します。認定証は、プログラムの選択に関係なく発行する。

# 大学の数理及びデータサイエンス教育の全国展開

令和2年度要求・要望額 12億円  
 (前年度予算額 9億円)  
 ※国立大学法人運営費交付金の内数



## 背景・課題

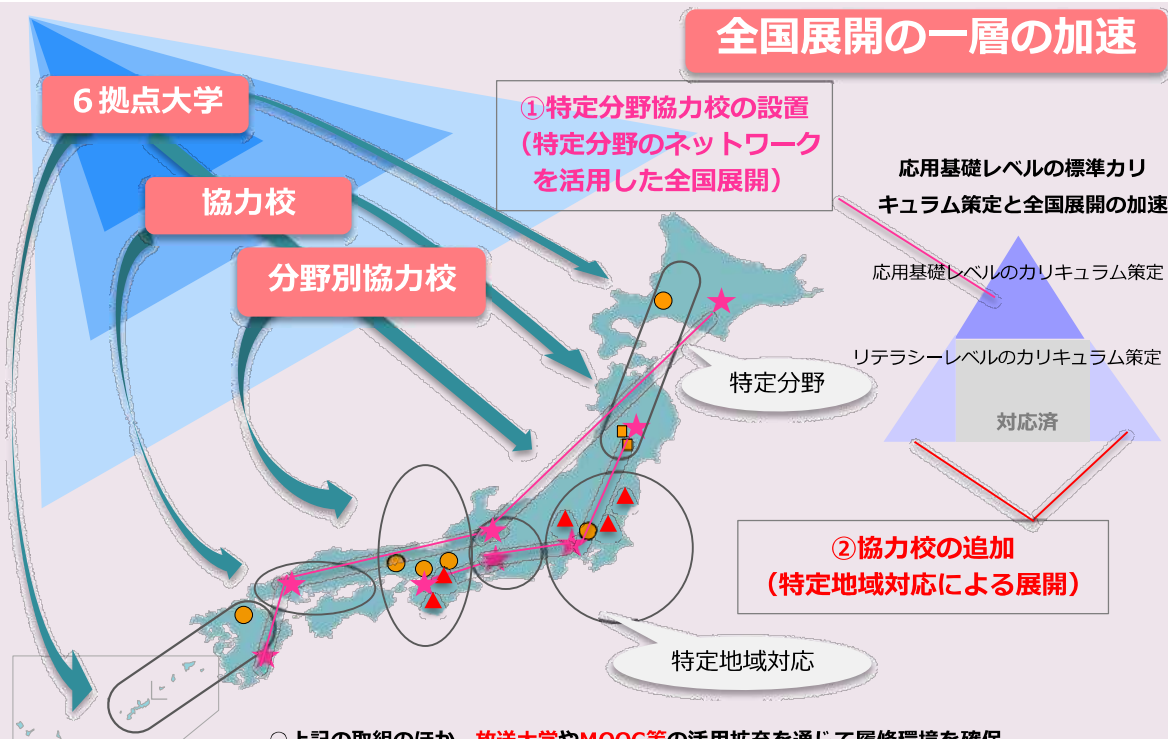
- ✓ デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要がある。
  - ✓ AI戦略2019では、**2025年度を目標年度**として、**①文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人 卒/年）が初級レベルの能力を習得**すること、**②大学・高専生（約25万人 卒/年）が、自らの専門分野への応用基礎力を習得**することが掲げられているところ。
- ⇒
- ・これまでの全学部学生に対する全学的な数理・データサイエンス・AI教育の実施に加え、さらに**新たに25万人に対して、応用基礎レベルの教育を展開**する目標が設定され、対応できるカリキュラムを実装していくことが必要であり、その策定に当たっては**専門分野別の観点も取り入れる必要**。
  - ・全学的に展開する基礎プログラムの構築は進んでいる一方で、**文系のみ、単科のみの大学等においては教員などリソースの確保が困難**。
  - ・**2025年度までに、50万人・25万人が習得できることを目標**とし国公立大学等への展開を一層加速する必要。

## 取組内容

- ✓ **6大学を拠点**として設置し、全学的な数理・データサイエンス教育を先行的に実施するとともに、拠点大学で形成するコンソーシアムにおいて、標準カリキュラム・教材を開発。
- ✓ **20大学を協力校**として設置し、全国の国公立大学等への普及・展開を図るとともに、教えることができる教員を増やすためのFD活動を実施。
- ✓ さらに数理・データサイエンス教育の全国展開をより一層加速するため、対象大学が多い**特定地域について協力校を重点配置**するとともに、当該協力校の特色を活かして地方大学に対しても教育を展開。
  - ・協力校（特定地域対応） 新規10校
- ✓ 一方、専門分野別の観点を踏まえた**応用基礎レベル**の標準カリキュラムを策定するとともに、その教育を全国展開するために、新たに**特定分野協力校を設置**し、全ての学生が数理・データサイエンス教育を受けられる環境を構築。
  - ・特定分野協力校 10校（新規含む）

+

数理・データサイエンス・AIの優れた教育プログラムを認定する制度の構築



○上記の取組のほか、放送大学やMOOC等の活用拡充を通じて履修環境を確保  
 ※放送大学においては標準カリキュラムに準拠した授業科目を制作予定(令和2年度要求)





令和 2 年 2 月 5 日

総合企画戦略部国際連携推進課

### ハワイ沖縄連合会との連携協力に関する覚書の締結について

令和 2 年 1 月 23 日（木）に西田睦学長、新田早苗総合企画戦略部長がハワイ沖縄連合会（Hawaii United Okinawa Association : HUOA）を訪問し、ハワイ沖縄センター（ハワイ州オアフ島ワイパフ市）にてハワイ沖縄連合会との連携協力に関する覚書調印式が執り行われた。

琉球大学では、本学の特性と強みを活かして海外のネットワークを構築し、本学の教育研究の可能性を広げ、地域・国際社会に貢献するため、中期計画及び国際戦略基本方針において「沖縄県系人ネットワークとの連携」を戦略の 1 つとして掲げており、そのための取組の一つとして、今回のハワイ沖縄連合会との覚書の締結に至った。

沖縄とハワイの間では、沖縄県系人留学生の受入や学生交流、研究者の学術交流等、これまで幅広い教育・研究交流が行われている。特に、ハワイ大学とは、1988 年に学術交流協定を締結以降、多分野に渡って交流を行っており、中でも移民研究においては本学学生や研究者のハワイ訪問に際して同連合会から手厚いご支援を頂いている。今回締結した覚書では、沖縄県系人子弟学生の本学への留学支援や教育分野・人材育成分野に係る支援・協力、文化交流等の取組について推進することを掲げており、本学とハワイ沖縄連合会との間で従来から行われてきた交流をより活発なものとし、組織的に推進することを目的としている。

調印式では、同連合会役員、関係者の出席のもと、リン・ミヤヒラ会長からはこれまでの交流が正式な形で覚書となったことは喜ばしいことであり、今後も活発に相互の交流を進めたい旨が述べられ、西田学長からは、本学学生、教員への長年の支援に対する感謝とともに、今回の覚書締結を機に、同連合会と本学との絆をこれまで以上に深め、より活発な教育・研究交流を発展させたい旨が述べられた。

調印式終了後には、同センター内にて懇親会が開催され、ミヤヒラ会長のほか、パトリック・ミヤシロ次期会長、ジョン・イトムラ専務理事ら同連合会のメンバー約 15 名が出席し、西田学長をはじめ、本学からの訪問者との親睦を深めた。

琉球大学ではこれまで南米 3 カ国（ブラジル・ボリビア・アルゼンチン）の各沖縄県人会と連携協力に関する覚書を締結しており、ハワイ沖縄連合会との覚書は 4 つめとなる。本覚書の締結を通じ、連携を深めることにより、ハワイからの沖縄県系人留学生の受入や短期研修等による本学学生派遣、研究交流等の促進、また、日本語教育やしまくとぅば学習支援等によるウチナーンチュコミュニティへの貢献を目指している。



HUOA リン・ミヤヒラ会長（右）と



調印式出席者らと





懇談会での出席者スピーチ



HUOA 役員らによるパフォーマンス



1 世ガーデンの説明を受ける様子



資料室にて HUOA の活動の歴史を説明するメンバー



地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学

資料 5

# 第3回 琉大未来共創フォーラム

Island wisdom, for the world, for the future.

【テーマ】

## 高等教育における 女性のリーダーシップ ～津田梅子の後継者育成に学ぶ～

講演者 <sup>たかはし</sup>高橋 <sup>ゆうこ</sup>裕子

(津田塾大学 学長  
同大学芸学部英語英文学科 教授)



(略歴)

1980年津田塾大学英文学科卒業。84年筑波大学大学院修士課程修了。米・カンザス大学大学院にて83年M.A., 89年Ph. D.取得。97年津田塾大学助教授、04年同教授、16年より学長。専門はアメリカ社会史(家族・女性・教育)、ジェンダー論。著書に『津田梅子の社会史』(玉川大学出版部、2002年、アメリカ学会清水博賞)、『女性と高等教育—機会拡張と社会的相克』(昭和堂、2008年)(分担執筆)、『家族と教育』(明石書店、2011年)(共編著)、三成美保編著『教育とLGBTIをつなぐ—学校・大学の現場から考える』(青弓社、2017年)(分担執筆)等。アメリカ学会会長、ジェンダー史学会常任理事、日本学術会議連携会員、日本私立大学連盟常務理事。

日時

令和2年2月10日(月)13:30～15:00

(13:15 開場)

会場

琉球大学共通教育棟 1号館 118

入場  
無料

概要

女性の高等教育をめざす私塾「女子英学塾」として、津田梅子により設立された津田塾大学の高橋学長をお招きし、高等教育における女性のリーダーシップ、津田梅子がどのようにして後継者を育成していたかをご講演いただきます。

本フォーラムは、令和元年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」の一環として開催します。

「琉大21世紀フォーラム」は第100回の開催をもちまして、名称を「琉大未来共創フォーラム」に変更しました

お申込・お問い合わせ : 琉球大学 総合企画戦略部 地域連携推進課 企画係

【事前申込 2/7(金)まで】 TEL: 098-895-8997・8998 FAX: 098-895-8185 Email: chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

下記QRコードからでもお申し込みいただけます。





# 第3回 琉大未来共創フォーラム ACCESS MAP 琉球大学

### 那覇バスターミナルから琉球大学

#### モノレール&タクシー

空港 → 旭橋 → 首里 → てだこ浦西 → 琉球大学

モノレール 約10分    モノレール 約17分    モノレール 約12分    タクシー 約10分

---

### 空港から琉球大学

#### 高速バス

**111 117** 番線

- 琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運行
- ※各20～40分に1本程度/所要時間:40～50分

**113 123 152** 番線

- 琉球バス 経路 空港→沖縄自動車道→琉大入口下車 (琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩約4分)
- ※1時間に1本程度/所要時間:45分

### 首里駅琉大快速線

**94** 番線→琉大南口/北口方面

- 那覇バス モノレール首里駅から琉大北口まで(平日のみ運行)
- 経路 首里駅前→汀良三丁目→城東小学校前→石嶺二丁目→棚原→キリスト教短大入口→琉大附属病院前→琉大附属小学校→琉大法文学部前(琉大北口行きのみ)→琉大北口(終点)

---

### 那覇バスターミナルから琉球大学

#### 路線バス

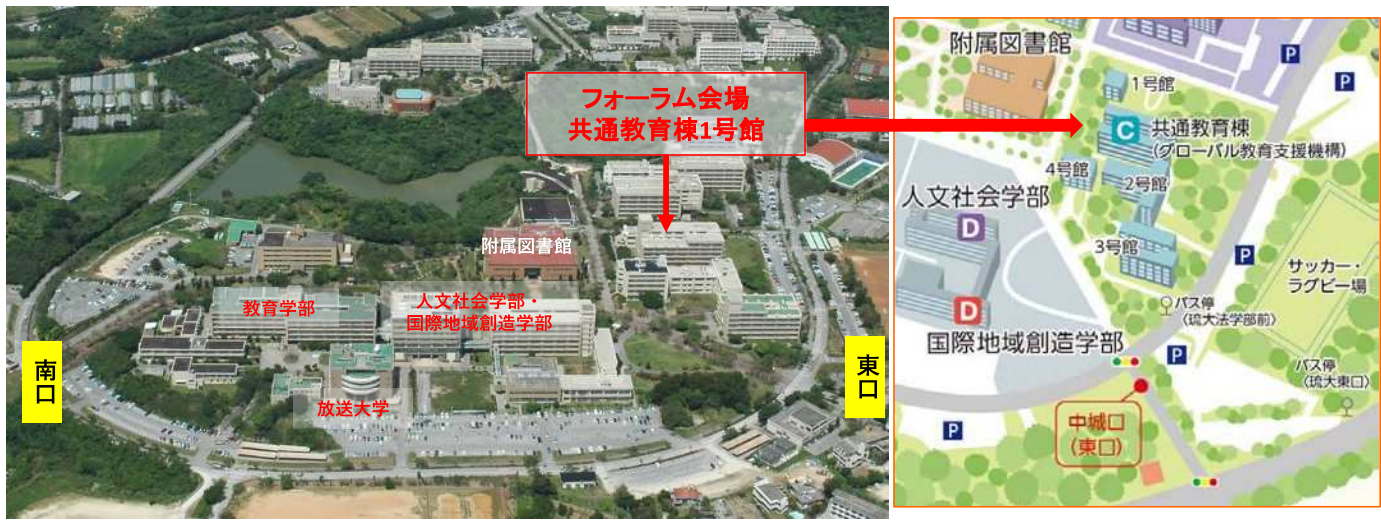
**97** 番線「琉大東口/北口方面」

- 那覇バス 経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→儀保(首里)→琉大附属病院→琉大東口→琉大北口(終点)

**98** 番線「琉大北口方面」

- 琉球バス 経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→バイパス→真栄原→沖国大前→琉大北口(終点)
- ※各20～40分に1本程度/所要時間:40～50分

↑アクセスマップ、キャンパスマップはこちらからもご確認ください



## 第3回 琉大未来共創フォーラム 参加申込書

	氏名	ご職業・所属先
1		
2		
3		
4		
5		
6		

当日受付にて混雑を避けるため、事前申込みにご協力ください。  
 ご参加予定の企業・団体名、参加者氏名をご記載の上、**2月7日(金)**までに申込フォーム(表面 QR コード)、FAXもしくはメール( [chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp) あて)にてお申込みください。

**【個人情報について】**  
 本フォーラム申込み等で取得した個人情報については、本学の個人情報管理規則に基づき適切に管理し、本フォーラムの参加者への案内・運営以外の目的には使用いたしません。

令和 2 年 1 月 14 日  
琉球大学大学院法務研究科

### 第 1 回共通到達度確認試験の実施について

#### 1. 共通到達度確認試験について

法学未修者の教育の質の保証の観点から各大学が客観的かつ厳格に進級判定を行い、学生に対する学修・進路指導の充実を図る基礎とし、学生自身においても全国レベルでの比較の下で自己の学修到達度を自ら把握し、学修の進め方等を見直すことを可能とするために実施される。

これまでの 5 回の試行試験を経て今年度より本格実施。2019 年度入学者より、本試験の成績を進級判定資料の一つとして活用することが国により定められている。一方、2018 年度以前の入学者も受験できるが、こちらは学修指導の参考資料として活用される。

#### 2. 試験期日・会場

令和 2 年 1 月 12 日(日) 全国の法科大学院で一斉に実施

#### 3. 本学での志願者数(全国の志願者数等は未発表、以下同じ)

- ・2019 年度入学者 14 名(休学者などを除いた在学者の全員)
- ・2018 年度以前入学者 1 名

#### 4. 本学での受験者数

- ・2019 年度入学者 14 名
- ・2018 年度以前入学者 0 名

#### 5. 今後の扱い

共通到達度確認試験管理委員会より、1 月 31 日に成績などのデータが返送される。

これを受けて、各大学ではそれまでの学業成績など他の要素とともに法学未修者 1 年次の 2 年次への進級の可否について検討することになる。

本学においても、本試験の成績を進級判定資料の一つとして扱い、3 月に進級判定を行う。なお、学業成績は優れているものの、本試験のみ進級水準を満たさなかった場合には再試験の機会を与えることにしている。

#### 6. 備考

本試験は各大学の分担金、弁護士会の支援及び受験生の受験料により運営されている。本学では、学生の経済的負担軽減の観点から、本試験の受験料について学生負担を免除している。

## 第1回共通到達度確認試験 受験要綱

共通到達度確認試験管理委員会

第1回共通到達度確認試験を申し込むにあたり、下記記載内容をよく読んでください。受験申し込みをすることにより、下記記載内容について同意したものとみなします。

## 【実施の趣旨】

法学未修者の教育の質の保証の観点から各法科大学院が客観的かつ厳格に進級判定を行い、学生に対する学修・進路指導の充実を図る基礎とし、学生自身においても全国レベルでの比較の下で自己の学修到達度を自ら把握し、学修の進め方等を見直すことを可能とするために実施するものです。

## 【日程と時間割】

令和2年1月12日(日) 12:40～16:55

憲法(30問:正誤20問・多肢10問)

[集合時間12:40] 13:00～13:50(50分)

刑法(30問:正誤20問・多肢10問)

[集合時間14:10] 14:20～15:10(50分)

民法(45問:正誤30問・多肢15問)

[集合時間15:30] 15:40～16:55(75分)

\*時間の管理は教室にいる試験監督員の時計で行いますので、余裕をもって集合してください。

## 【対象者】

カテゴリ※1	入学年次等	受験の要否	活用方法
カテゴリA	2019年度以降入学未修1年次生 (当該年度末の進級予定者でない者※2を除く)	要	進級判定資料のひとつ として活用
カテゴリB	2018年度以前入学未修1年次生 (当該年度末の進級予定者でない者※2を除く)	要	学修指導の参考資料 として活用
カテゴリC	上記以外の在学生	否 (任意)	学修指導の参考資料 として活用

※1 今後、当試験ではこのカテゴリ名で各対象者を示します。

※2 休学者、長期履修者、秋季入学者等

## 【出願期間・方法】

期間:各法科大学院により異なりますので、事務室等でご確認ください。

出願方法:当受験要綱をよく読んだ上で、「受験申込書」に記入してください。なお、記入したことにより、この要綱記載事項に同意したことになります。

受験票の交付方法:各法科大学院の担当より通知します。

**【出題形式・解答方式】**

出題は正誤式と多肢選択式、解答方式はマークシートです。

本年度の民法の問題は、平成 29 年の民法改正(債権法改正)については、「民法の一部を改正する法律」(平成 29 年法律第 44 号)および「民法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」(平成 29 年法律第 45 号)による改正後の法律に基づいて出題されます。

また、平成 30 年および令和元年の民法改正(成年年齢関係、相続法の改正、特別養子関係)については、本年度の試験の実施日において未施行のものも含めて、「民法の一部を改正する法律」(平成 30 年法律第 59 号)、「民法及び家事事件手続法の一部を改正する法律」(平成30 年法律第 72 号)および「民法等の一部を改正する法律(令和元年法律第 34 号)」による改正後の法律に基づいて出題されます。

**【受験時の注意事項】**

・ 1 2 時 4 0 分までに試験室に入室し、指定された席に着いてください。遅刻限度は解答開始後 2 0 分までです。それ以降の入室はできず、受験を認めません。

・ 解答用紙へのマークは、HB または B の黒鉛筆を使用してください。その他の筆記具 (HB・B 以外の鉛筆、シャープペンシル等) を使用した場合、採点装置で読みとることができず、無効と判断されることがあります。

・ 試験室で机の上に置けるものは、受験票、学生証、黒鉛筆 (HB または B)、メモ用のシャープペンシル、消しゴム、手動の鉛筆削り、時計 (計時機能だけのものに限る)、眼鏡のみです。六法を参照することはできません。

・ 問題冊子が配られたら、表紙に記載してある注意事項をよく読み、それを遵守してください。

・ 試験中は問題に関する質問には回答いたしません。試験終了後、委員会に報告され、委員会が必要と認めた場合には、その内容をウェブサイト上で公表します。

・ 携帯電話やウェアラブル端末等の通信機器は電源を切り、カバン等の中に入れてください。ポケット等に入れ所持することも禁止です。この指示に従わない場合は不正行為とみなします。なお、計時機能だけの使用も認められません。

・ 六法や参考文献等はカバン等の中に入れてください。この指示に従わない場合は不正行為とみなします。

・ 試験実施時に監督員による本人確認を行いますので、ご協力ください。

**【不正行為について】**

試験の公平性・公正性を保つため、不正行為は認められません。下記に該当する行為は不正行為とみなしその場で失格になります。

・ 携帯電話、ウェアラブル端末等の通信機器や六法、参考文献等に関する禁止行為の指示後に、指示に従わなかった場合

・ カンニング等の行為が認められた場合

・ 他の受験者に対する迷惑行為があった場合

・ その他、試験監督員の指示に従わなかった場合

**【正解および解説の発表】**

試験終了後、速やかに法科大学院協会のウェブサイト上 (<http://www.lskyokai.jp/>) で公表します。

**【結果について】**

令和2年1月31日（金）に各法科大学院に送付する予定です。各自への通知方法については、各法科大学院に委ねていますので、所属する法科大学院に確認してください。なお、自己採点をする場合、マークシートの解答を問題冊子に記録しておいてください。

**【試験結果分析について】**

- ・試験の答案は第三者機関が採点処理します。なお、管理委員会および第三者機関は、試験結果分析のため、受験番号に対応した属性情報（所属法科大学院、年次、未修・既修の別、入学年）を把握しますが、受験者の個人識別情報（学籍番号、氏名等）は把握しません。
- ・所属する大学における学業成績や司法試験の結果等と比較分析を行う場合があるため、その分析に必要な範囲内において、受験番号ごとの属性情報と成績を、8年間保管します。なお、この比較分析において、受験者が不利益を被ることはありません。
- ・全体の採点・分析結果および各大学の採点・分析結果は、各法科大学院に提供され、必要に応じて個々の参加学生に提供されます。その提供方法は、各法科大学院で異なります。

# 共通到達度確認試験

中央教育審議会大学分科会  
法科大学院等特別委員会(第92回  
R元.6.27開催) 参考資料1より

- 共通到達度確認試験は、各法科大学院が共通して**客観的かつ厳格に進級判定を行うことができるよう、全法科大学院が共通の問題を用いて統一的に学生の到達度を確保するための試験。**
- 現在、平成31年度の本格実施に向けて、運営を担う大学(東京大学、一橋大学、京都大学(平成28年度から神戸大学を追加))を中心に試行が進められており、平成31年3月に5回目の試行試験を実施。

## 【第1回試行(H27.3.12)】1年次学生(未修者)を対象に、憲法・民法・刑法の3科目を実施

### 第1回試行のポイント

- ◆ 正誤式問題と多肢選択式問題を用いたマークシート方式
- ◆ 「共通的な到達目標モデル※」に則した出題
- ◆ **57校の484名**の学生が受験(対象811名)
- ◆ 最高点・最低点・平均点、得点分布表、設問ごとの正解・正答率の一覧等のデータを公表

※法科大学院で共通して学修することが必要な内容・水準を示すものとして2010年策定。

## 【第2回試行(H28.3.14)】2年次学生(未修者・既修者)まで対象を拡大

### 第2回試行のポイント(第1回試行からの変更点を主に記載)

- ◆ 対象者を拡大(1年次学生(未修者)に加え、**2年次学生(未修者・既修者)も対象**)
- ◆ 各学年とも共通の問題(科目:憲法・民法・刑法)を用いて実施
- ◆ **60校の1,153名**の学生が受験(対象3,139名)
- ◆ **受験者の法科大学院における成績等との比較分析を行うためのデータを収集**

## 【第3回試行(H29.3.16)】7科目まで科目を拡大

### 第3回試行のポイント(第2回試行からの変更点を主に記載)

- ◆ 刑事訴訟法・民事訴訟法・商法・行政法の**4科目を追加**(2年次学生(未修者・既修者)が対象)
- ◆ **1年次学生と2年次学生で共通問題と学年別問題を組み合わせ実施**(科目:憲法・民法・刑法)
- ◆ 学年別問題を使用することで学修の成果をより効果的に把握することが可能かどうかを検証

## 【第4回試行(H30.3.15)】1・2年次学生を対象に、憲法・民法・刑法の3科目を実施

### 第4回試行のポイント(第3回試行からの変更点を主に記載)

- ◆ 第3回試行試験の結果を踏まえ、**1年次学生と2年次学生で共通の問題で実施**(科目:憲法・民法・刑法)

## 【第5回試行(H31.3.14)】1・2年次学生を対象に、憲法・民法・刑法の3科目を実施

平成31年度から本格実施



## 令和2年度琉球大学個別学力試験（一般入試）について

### 1. 出願期間

インターネット出願登録：令和2年1月20日（月）～2月5日（水）午後5時まで

入学願書受付：令和2年1月27日（月）～2月5日（水）午後5時まで（必着）

### 2. 個別学力試験日程

前期日程：令和2年2月25日（火）・26日（水）

後期日程：令和2年3月12日（木）・13日（金）

### 3. 合格発表

前期日程：令和2年3月6日（金）午後3時

後期日程：令和2年3月20日（金）午後3時

### 4. 追加合格発表

令和2年3月28日（土）～31日（火）

### 5. 学部別募集人数

学 部 名	前 期	後 期
人文社会学部	120名	41名
国際地域創造学部	【昼間主】180名 【夜間主】44名	【昼間主】35名 【夜間主】13名
教育学部	91名	13名
理学部	146名	41名
医学部	111名	35名
工学部	206名	40名
農学部	90名	21名
計	988名	239名

# 令和2年度琉球大学一般入試志願者数

令和2年2月5日 10時現在

学部	日程	学科	募集人員	県内	県外	その他	合計	志願倍率
人文社会学部	前期	国際法政学科	54	87	14		101	1.9
		人間社会学科	41	97	27	1	125	3.0
		琉球アジア文化学科	25	55	14		69	2.8
		小計	120	239	55	1	295	2.5
	後期	国際法政学科	14	93	35	1	129	9.2
		人間社会学科	18	72	36	1	109	6.1
		琉球アジア文化学科	9	43	14		57	6.3
		小計	41	208	85	2	295	7.2
		計	161	447	140	3	590	3.7

学部	日程	学科・(入試方式)	募集人員	県内	県外	その他	合計	志願倍率		
国際地域創造学部	昼間主前期	国際地域創造学科	(国際的思考系)	60	91	29		120	2.0	
			(論理的思考系)	90	108	20		128	1.4	
			(数学的思考系)	30	52	9		61	2.0	
		小計	180	251	58	0	309	1.7		
	後期	国際地域創造学科	(国際的思考系)	15	83	28		111	7.4	
			(論理的思考系)	20	101	39		140	7.0	
			小計	35	184	67	0	251	7.2	
	夜間主	前期	国際地域創造学科	(国際的思考系)	20	38	3		41	2.1
				(論理的思考系)	24	88	5		93	3.9
				小計	44	126	8	0	134	3.0
		後期	国際地域創造学科	(国際的思考系)	5	42	6		48	9.6
				(論理的思考系)	8	103	13		116	14.5
	小計	13	145	19	0	164	12.6			
	計	272	706	152	0	858	3.2			

学部	日程	コース	専攻・専修	募集人員	県内	県外	その他	合計	志願倍率	
教育学部	前期	学校教育コース	学校教育専攻	30	54	25		79	2.6	
			教科教育専攻	20	40	48		88	4.4	
		中学校教育コース	教科教育専攻	国語教育専修	4	7	2		9	2.3
				社会科教育専修	3	6	3		9	3.0
				数学教育専修	5	10	3		13	2.6
				理科教育専修	5	10	2		12	2.4
				音楽教育専修	3	3			3	1.0
				美術教育専修	3	2	1		3	1.0
				保健体育専修	3	6	2		8	2.7
				技術教育専修	2	4	8		12	6.0
				生活科学教育専修	3	5	1		6	2.0
				英語教育専修	2	3	1		4	2.0
		育教援	育教援支	特別支援教育専修	8	6	5		11	1.4
		小計	91	156	101	0	257	2.8		
		後期	学校教育コース	学校教育専攻	8	47	25		72	9.0
				教科教育専攻	5	54	32		86	17.2
				小計	13	101	57	0	158	12.2
		計	104	257	158	0	415	4.0		

# 令和2年度琉球大学一般入試志願者数

学部	日程	学科・系	募集 人員	県内	県外	その他	合計	志願 倍率	
理学部	前期	数理科学科	30	61	14		75	2.5	
		物質地球科学科	物理系	28	52	47		99	3.5
			地学系	19	13	30		43	2.3
		海洋自然科学科	化学系	32	49	23		72	2.3
			生物系	37	23	59	4	86	2.3
	小計	146	198	173	4	375	2.6		
	後期	数理科学科	10	64	29		93	9.3	
		物質地球科学科	物理系	7	27	15	2	44	6.3
			地学系	4	30	35		65	16.3
		海洋自然科学科	化学系	10	38	18		56	5.6
生物系			10	20	35	1	56	5.6	
小計	41	179	132	3	314	7.7			
計		187	377	305	7	689	3.7		

学部	日程	学科	募集 人員	県内	県外	その他	合計	志願 倍率
医学部	前期	医学科	70	125	102	3	230	3.3
		保健学科	41	59	12	1	72	1.8
		小計	111	184	114	4	302	2.7
	後期	医学科	25	96	181	2	279	11.2
		保健学科	10	40	12		52	5.2
		小計	35	136	193	2	331	9.5
計		146	320	307	6	633	4.3	

学部	日程	学科	募集 人員	県内	県外	その他	合計	志願 倍率
工学部	前期	工学科	206	321	300	4	625	3.0
	後期	工学科	40	210	186	1	397	9.9
	計		246	531	486	5	1022	4.2

学部	日程	学科・コース	募集 人員	県内	県外	その他	合計	志願 倍率
農学部	前期	亜熱帯地域農学科	22	18	39	2	59	2.7
		亜熱帯農林環境科学科	21	25	58	1	84	4.0
		地域農業工学科	17	25	21		46	2.7
		亜熱帯生物資源科学科	22	29	22		51	2.3
		健康栄養科学コース	8	12	13		25	3.1
	小計	90	109	153	3	265	2.9	
	後期	亜熱帯地域農学科	5	17	48	2	67	13.4
		亜熱帯農林環境科学科	7	17	45		62	8.9
		地域農業工学科	3	19	18		37	12.3
		亜熱帯生物資源科学科	6	30	46		76	12.7
		小計	21	83	157	2	242	11.5
計		111	192	310	5	507	4.6	

前期合計	988	1584	962	16	2562	2.6
後期合計	239	1246	896	10	2152	9.0
大学総計	1227	2830	1858	26	4714	3.8

# 「沖縄からアジアへトビタテ！留学 JAPAN プロジェクト」報告会

## 式 次 第

1. 日 時 令和2年2月7日（金） 15：00～17：30

2. 場 所 琉球大学 地域創生総合研究棟 1階

### 3. 次第

報告会（第1部 15：00～16：20）

- ・主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・沖縄産学官協働人財育成円卓会議代表 西田 睦
- ・支援企業様代表挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・株式会社琉球銀行代表取締役会長 金城 棟啓
- ・第11期派遣留学生報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・知念 ゆかり 他7名
- ・記念撮影

懇談会（第2部 16：30～17：30）

軽食・茶菓子・飲み物（ノンアルコール）

- ・開会挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・沖縄産学官協働人財育成円卓会議代表 西田 睦
- ・支援機関様挨拶・・・・・・・・・・（独）日本学生支援機構グローバル人材育成部長 大西 啓介
- ・閉会挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・第11期派遣留学生代表